

## 東京湾再生官民連携フォーラムの主な活動状況について

### (1) 東京湾再生官民連携フォーラムの概要

#### 1) 役員改選

10月21日(土)に、東京湾再生官民連携フォーラム第5回通常総会が開催され、フォーラム議長に來生新(放送大学長)、監事に風呂田利夫(東邦大学名誉教授)、大浦佳代(海と漁の体験研究所代表)が再選された。

フォーラム登録会員数(H30.1現在) ※【 】はH29.12からの増減  
個人会員 297名【8名増】、団体会員 114団体【2団体増】

#### 2) プロジェクトチームの設立(該当なし)

プロジェクトチームは昨年度からの改編・追加はない。

### (2) 東京湾再生官民連携フォーラムの平成29年度の主な活動状況

#### 1) 東京湾大感謝祭(2017)の開催状況

平成29年10月20日(金)～21日(土)に横浜赤レンガ倉庫・周辺 海上において開催された。(注:22日(日)は荒天中止)

オープニングセレモニーでは、東京湾再生アンバサダーの日本テレビ 榊太一アナウンサーが司会。

東京湾再生に関連する展示、東京湾再生シンポジウム(国土技術政策総合研究所主催,10/20)、東京 WONDER 下水道(下水道主催)、WONDER ACTION CAFÉ 2017(環境省主催)、水上オートバイ救助活動デモ(海上保安庁主催)、清掃兼油回収船展示(関東地方整備局主催)、釣り大会、江戸前フード販売、環境再生活動や技術、製品の展示など多数のイベントを実施された。2万5千人(20日,21日の2日間)が来場した。

#### (参考)

東京湾再生推進会議の取り組みについて、アピールすることを目的に中間評価に関するパネルを作成し、東京湾大感謝祭において、東京湾再生官民連携フォーラムのPT展示スペースの一部を借りて展示をおこなっている。

#### 2) 新規の政策提案の動向について

海水浴復活方策PTが企画運営委員会に提出した、『「東京湾での海水浴復活の方策第一次政策提案(案)」は、今まで検討してきた成果を無駄にせず、1年先延ばして時間をかけて、事務局が間に立って企画運営委員の意見も集約し、成功例を水平展開できるように突破の理論を整理し、具体策を取りまとめていく』こととなっている。

(平成 29 年度 第 3 回企画運営委員会議事より抜粋)

### 3) CSR-NPO 未来交流会、企業・行政等施設見学会

NPO、企業、組織団体それぞれの立場、単体だけでは解決できない課題や不足する部分について情報共有を図り、課題解決に向けて意見が交換できる機会として CSR-NPO 未来交流会を 7 月 20 日(33 団体参加)及び 2 月 1 日(28 団体参加)の 2 回、フォーラム主催で行われた。

鉄鋼スラグの有効性と安全性に係る技術開発に取り組む新日鐵住金株式会社の RE センター(富津)の施設見学をフォーラム主催で 9 月 21 日に行われた。

### 4) 生物多様性アクション大賞 2017 に入選

東京湾再生官民連携フォーラムは、江戸前ブランド育成 PT の活動を中心に「たべよう部門」に応募し、入賞 38 団体に入っている。

## (3) 政策提案に係る取り組み状況

### 1) 「指標」に係る政策提案後の取り組み状況

東京湾再生官民連携フォーラムに設立された「東京湾再生のための行動計画の指標の活用プロジェクトチーム(PT)」の前身である、「指標検討 PT」において検討され、平成 26 年 11 月「新たな指標に関する提案」が、東京湾再生推進会議(以下、「推進会議」という)に提出された。

推進会議では、提案内容を基に検討を進め、平成 27 年 5 月にフォーラムが提案した指標を全て採用する形で評価指標を設定している。

その評価指標を元に、平成 29 年 3 月に、推進会議で「東京湾再生のための行動計画(第二期)の第 1 回中間評価を実施している。

現在、指標活用 PT では、推進会議の中間評価の結果を踏まえた指標の改善を議論している。(COD 及び透明度の解析、糞便性汚染等について検討等を実施。)

推進会議の各分科会の事務局担当者等が参加し、上記改善について、PT と連携して検討を行っている。

加えて、中間評価において、行政機関だけでは把握が難しい指標について、データの収集・分析等を推進会議と指標活用 PT で協力し、検討中である。

### ◆現状把握及び目標達成状況の評価には至らなかった指標：3 項目

(海が見える視点場、水辺のイベントの開催回数、水上バス・屋形船・レストラン船の利用者数)

## 2) 「生き物生息場」に関する政策提案後の取り組み状況

平成 28 年 2 月 18 日にフォーラムより推進会議へ提出された。官民が連携して取り組むべき生き物生息場づくりの基本的な方針、進め方の提案、及びマコガレイ産卵場の底質改善に関して提案がなされている。

本提案を基に生き物生息場 PT と国土交通省、水産庁等の関係者により、生き物生息場づくりの実証試験に向けた検討を進めている。

平成 29 年度、生き物生息場 PT は産卵場に関し、要件の具体化と造成方法等について検討を行った後に、現存するマコガレイ産卵場における産卵状況のモニタリングを実施した（12/26）。

今後、産卵場造成に向けて、深淺測量・海底地質状況の把握や具体的な施工の検討を進めることとしている。また、有効活用が可能な浚渫発生土が生じた際は、マコガレイ産卵場のマウンドの試験施工に協力する予定である。

## 3) 「東京湾パブリックアクセス方策」に関する政策提案

平成 28 年 10 月 22 日のフォーラム総会において、東京湾パブリックアクセス方策検討 PT より政策提案の提出について承認され、平成 29 年 3 月 30 日にフォーラムから推進会議へ提出された。

「人々が、手軽に海に接する既存のアクセスを広く認識し、活用が進むこと」のために、既存の施設やアクセスルートをよく知ってもらう政策・施設やアクセスルートの活用を促す施策として、情報提供機能の充実（提供する情報の内容や情報提供の方法）について提案

平成 29 年度は、推進会議の構成員に海浜公園等の視点場の有無、視点場における各自治体等（管理者）の取り組みについて、現状把握を実施。

一部自治体においては、HP 等にアクセスルートの情報が掲載されているものの、PT が提案している情報化技術の活用やそれを活用した情報の提供は未実施であり、これらの機能拡充を今後検討する必要があるが、本提案は推進会議の構成員の所管事項を越えた提案であるところ対応方法の検討を引き続き実施していく。